



CRSAの実装を見据えた 今後の対応方針について

2022年3月15日

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）
デジタルアーキテクチャ・デザインセンター（DADC）

CRSAの実装を見据えた今後の対応方針について

課題項目	対応方針（案）						
データ項目・収集	<ul style="list-style-type: none">● 診断データの収集対象となる製品の仕様を調査し、以下の観点で整理を行う<ul style="list-style-type: none">・ データ出力の方法・ データ出力可能な項目・ APIの有無と制約事項● データモデル検討の際に、製品から取得可能なデータ項目を調査し、異なる製品においても共通的に取得可能なデータ項目を選定する● PC端末以外（サーバ機器等）についても診断データの収集方法を検討する						
データ連携方法	<ul style="list-style-type: none">● FederalとAgencyのデータ連携方法（API方式、ファイル連携方式等）について検討する● 緊急時には情報のリアルタイム性が求められるため、任意のタイミングで情報を取得する方法も別途検討する● 特定のソフトウェアによらない抽象度を上げたデータ連携方法を検討する● システムの性能要件について、診断データの取得からダッシュボード反映までの時間を考慮する						
リスクスコア	<ul style="list-style-type: none">● STIG以外に活用可能なセキュリティ設定ガイドラインを調査する● STIGに代替するCSMの評価項目を検討する● VUL算出に必要な情報（CVSS等）が欠落していた場合の対応方法を検討する● 政府情報システムに対して影響度の高い脆弱性が公開された場合の周知方法を検討する						
ダッシュボード	<ul style="list-style-type: none">● 各ダッシュボードの役割・機能を整理する <table><tbody><tr><td data-bbox="556 931 1062 958">GSOダッシュボード：</td><td data-bbox="1105 931 1367 958">ASOダッシュボード：</td></tr><tr><td data-bbox="575 964 896 991">- リスク要因の認知と伝達</td><td data-bbox="1136 964 1373 991">- リスク要因の認知</td></tr><tr><td data-bbox="575 996 842 1024">- リスク状況の可視化</td><td data-bbox="1136 996 1479 1024">- リスク状況と所在の可視化</td></tr></tbody></table>	GSOダッシュボード：	ASOダッシュボード：	- リスク要因の認知と伝達	- リスク要因の認知	- リスク状況の可視化	- リスク状況と所在の可視化
GSOダッシュボード：	ASOダッシュボード：						
- リスク要因の認知と伝達	- リスク要因の認知						
- リスク状況の可視化	- リスク状況と所在の可視化						